

大熊町を 端から端まで ● 知りつくそう！

●第8回 保育所

保育内容

子供の活動のまとまりとして、健康・社会・自然・音楽・造形の六つの領域に分けて考えます。また、保育の方的なものとしては、健康保育・造形活動・音楽活動・自然観察・年中行事・ごっこ遊び・自由あそび等があ

保育目標

- ①じょうぶで体力のあるこども。
- ②元気よく友だちとあそべるこども。
- ③自分のことは自分でするこども。
- ④物事への感動、おどろき疑問を大切にし、みんなで考え表現できるこども。

ふるさと 再発見

公共施設を訪ねて

保育所の変遷

大熊町保育所は昭和四十一年五月に、下野上字大野二一六番地に開所しました。

その後老朽化等の問題から、昭和六十年三月に下野上字大野五五七の一の場所に設備も充実して、新築されました。

現在は、〇歳から就学前までクラスがあり、一二一名が入所しています。遊具施設や、緑の芝生も整えてあります。

「あそび」というのは、たゞそれだけで終わるのではなく、あそびの過程の中で興味や関心意欲なども育てられます。また、保母や友だちとの触れあいの中で情緒を深めたり、人間関係や社会生活のルールを学んだりもします。このように保育内容「あそび」の大切さも理解した上で、いろいろな保育方法の組み合わせの中で、養護的・教育的にも子供の発達に最も効となるような配慮のもとに進めています。





第一回終了者 大熊町保育所 42.3.25.

大熊町保育所で最初の保育士として勤務された佐藤キミさんにお話を伺いました。

開所は昭和四十一年五月一日定員六十人に對し、入所者は二十五人でした。三十五歳の子どもたちで写真の前列に立っている七人が第一回目の修了生です。現在はもう四十三～四歳、ずいぶん年月が経ちましたね。初年度は、私と富岡から來た笠原さんと一緒にでした。勤務は午前七時三十分～午後五時三十分ですが、七時には出勤し、子どもたちが庭でケガをしないように少し大きめの石を拾うのが朝の日課でした。なにしろ、外遊びの大好きな子どもが多く、中でじっとしている子どもはほとんどいなかつたですね。子どもたちが北向の方へ集団で逃走した時、車で追いかけて一人ずつ車に入れて連れ帰つたことや、午睡時、寝ない子どもを裏の田んぼに連れ出して、セリやタンポポを摘んだことがあります。

最初は何もない保育所で、子どもたちの着替えすら用意されてなく、おもしりをした時には私の子どものお古を着せて、汚れ物を洗濯して乾かして、帰るときにはそれを着替えさせて…ということもありましたよ。餅つきの時は主人が杵を二十本ほど作つてきてくれて、みんなでつきました。

プールも手作りだつたんですね。子どもたちに水遊びをさせたくて、保護者会の皆さんが休みの日に作つてくれたんですよ。その頃の保護者会の皆さんはとても仲良しで、一緒に旅行をしたこともあります。絆永会というんです。今でもお付き合いがあつて、私の退職時には慰労会を催してくれました。本当にうれしかつたですよ。第一回目の終

了式直前に、大熊町民謡協会から電子オルガンが寄贈されました、今は、どこの家でもピアノやキーボードがありましけどね。子どもたちはとても喜んでいました。

主人の転勤で、実家に戻つてきてから保育士の勉強をし、資格を取りました。その年の五月に開所されたので、すぐ資格を生かすことができました。何もせずにいてもいいけれど、何かを勉強して、それを生かして充実した日々を過ごすのは、とてもよい事です。

平成16年度 保育所入所者数および職員数			
0歳児	15人	正職員	11人
1歳児	22人	臨時職員	13人
2歳児	34人	計	24人
3歳児	30人		
4歳児	12人		
5歳児	5人		
計	118人		



5月1日現在